

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270135132
法人名	社会福祉法人 いわこ会
事業所名	社会福祉法人 いわこ会 グループホームさくらの里
訪問調査日	平成 20 年 2 月 5 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 1 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270135132
法人名	社会福祉法人 いわこ会
事業所名	グループホームさくらの里
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市三京町1531-1 (電 話) 095-814-1103

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年2月5日	評価確定日	平成20年4月1日

## 【情報提供票より】(平成 19年 12月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	7.0 人

### (2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱費・リネン代 11,000円	
敷 金	有( ) 円	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要(平成 19年 12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80.2 歳	最低	55 歳	最高	88 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田尾内科、日浦病院、ひらの歯科
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に恵まれた静かな環境に位置し、利用者は、四季折々に散歩や花の手入れなどを行いながら季節を感じ、楽しみながら生活を送っている。地域密着型サービスとして、運営推進会議を定期的に行い、地域とホームとの相互理解を進め、行政とも協力しながら運営を行っている。協力医ともしっかりと連携を図り、利用者の健康管理や医療面のサポートをしっかりと行う体制を整えている。管理者と職員は共に、「強い絆で結ばれ、笑顔の絶えない安らぎのある生活環境」という理念のもと、利用者一人ひとりの個性やペースを大切に、寄り添いながら、信頼関係の構築に努めている。また、研修の受講や他事業所との交流を図ることで、サービスの質の向上にも努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価後、全職員で改善点や問題点について話し合い、日々のケアを振り返って、反省しながら改善に向けて取り組み、トイレのカーテンについては、利用者のプライバシーに配慮して改善している。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票に職員全員が目を通し、項目ごとに気づきや意見を出し合っており、自己評価に取り組んでおり、また、常に日々のケアについて、スタッフ会議、ユニット会議で話し合いサービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はこれまでに3回開催しており、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、介護相談員、法人理事、職員が出席している。会議では、毎回テーマを決めてホームと地域の相互理解を深めていくよう話し合いを行っている。会議で出された意見や質問などについては、その日に出席された市の職員からアドバイスを受けたり感想をもらいながら、サービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族から要望などを職員に気軽に話してもらえるような雰囲気づくりに努めており、家族から出された要望や意見などについて、申し送りやユニット会議などで検討し、日々のケアに反映するよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設のケアハウスとともに夏祭りや運動会、クリスマス会などで、近隣幼稚園児をはじめとする地域の人々とふれ合い、交流を図っている。また、近所へ買い物や散歩の時なども地域の人とのふれ合う機会がある。

## 2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者と職員は、利用者が家庭的な環境のもと、笑顔の絶えない安らぎのある生活が送れるよう、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について、スタッフ会議やユニット会議、毎日の申し送り時などに話し合っている。職員は常に理念を目標に、日々のケアの中で言葉づかい等に配慮しており、職員の意識向上を図るよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設のケアハウスとともに、夏祭りや運動会、クリスマス会などの際に近隣の幼稚園児等をはじめとする地域の人々との交流を図っている。また、近所への買い物や散歩に出かけた時なども地域の人々とふれ合う機会がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価での改善点や課題について、職員間で共有し、日々のケアを振り返り、改善に向けて取り組んでいる。また、自己評価についても、職員全員が気づきや意見を出し合いながら取り組んでおり、自己評価から改善策を検討し、日々のケアに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、介護相談員、法人理事、ホーム職員が出席している。会議では、議題に沿って、ホームと地域の相互理解を深めていくよう話し合いを行っている。会議録を整理し、出席者から出された質問や意見などについて、出席者である市職員からアドバイスを受けるなどしながら、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。		

長崎県 グループホームさくらの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に苦情の相談にのってもらう機会などがあり、密に連絡をとって連携を図っている。また、社会福祉協議会とも連絡を密にし、情報収集に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、預かり金の収支報告、請求書等に利用者の近況報告書を添えて、定期的に送付している。また、急変時などには、その都度電話等で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに、家族が要望や意見を気軽に話せるような雰囲気づくりに努めている。家族から出された要望や意見などは申し送りやユニット会議等で検討し、日々のケアに反映するよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった場合は、利用者にも納得してもらえるよう説明し、馴染みの職員による支援を行い安心してもらえるよう心がけている。また、協力医のアドバイスを受けながら利用者が不安のないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修、他のグループホームとの共同研修など、積極的に受講できるよう勤務調整などに配慮している。また、受講者は研修報告書をまとめ、全職員が閲覧して研修内容を共有するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、グループホームケア研究会に参加しているほか、グループホーム連絡協議会にも加入し、勉強会などの際に他のグループホームの職員と交流したり、相互訪問をしたりするなど、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してホームの生活に馴染んでもらえるように、利用者の馴染みのものなどを配置し、安心できる雰囲気や環境づくりに努めている。また、家族等とも相談しながら、柔軟に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、日々のふれあいの中で信頼関係を築いており、職員が利用者から調理の技や工夫などを教えてもらう場面も多い。また、昔話をよく話してもらうことがあり、利用者の思いや喜びを共に分かち合い、支えあう関係づくりを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりがその日にしたいことを表情や会話などから把握するよう努め、本人のペースを大事にして支援している。食事や外出など、利用者の希望に出来るだけ対応できるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族には、日頃の関わりの中で思いや要望を聞き、担当職員はそれらを介護計画に反映させるようにしている。利用者が自分らしく安らぎのある暮らしができるように、アセスメントについても職員全員で意見交換やカンファレンスを行い、具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しを行うとともに、利用者の心身の状態の変化や、利用者や家族の要望に応じた見直しも随時行っている。また、日頃の気づきや意見は申し送りノートに記録し、朝夕の申し送りやユニット会議等で検討され、現状に即した介護計画の作成に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な通院は、基本的に家族に同行してもらっているが、日常の身体状況を記した文書をホームで作成し、言付けている。また、緊急時や家族のその時々々の要望に応じて通院介助や外出などに柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、利用者や家族と相談しながら決めており、利用者の体調や家族の要望に応じて、通院や訪問診療などが受けられるよう支援している。また、24時間いつでも適切な医療を受けられるよう協力医との協力体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の身体機能の低下や変化が見られた時などは、家族に報告し話し合いながら、これからの支援方針や思いの共有に努めている。また、協力医との連携を強化して、家族の安心と納得を得られるよう努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を行っている。また、記録等は他人の目にふれないよう保管場所を決めており、個人情報の取り扱いにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に配慮しながら、一人ひとりのペースに合わせた支援に努めている。起床や食事などの時間もそれぞれに合わせて柔軟に対応しており、利用者の状態や意向に配慮して支援している。		

長崎県 グループホームさくらの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が、一緒に調理や配膳、片づけなどを行い、食事と一緒に摂っており、利用者が楽しめるように雰囲気づくりを大切にしている。訪問調査の際も、歌を歌うなどして、笑い声がある楽しい食事風景が見受けられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、利用者の体調や希望に合わせて支援している。また、異性の職員が入浴介助をする場合は、利用者の同意を得て、入浴を楽しめるよう配慮している。	○	利用者の希望や体調に配慮しているので、今後さらに、入浴回数などに関わらず対応できる体制づくりを検討し、取り組まれることを期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、一人ひとりの特技や経験を活かしながら、掃除、調理、ラジオ体操、レクリエーションなどを通して、一人ひとりの楽しみや役割を見出し、得意分野で力を発揮してもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の気分、体調に応じて、ドライブに出かけたり、食事やおやつを食べにファミリーレストランに出かけたりして、楽しめるよう支援している。車椅子利用の利用者にも、なるべく戸外に出かけて季節感を感じてもらい、心身の活性化につながるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に玄関や居室はオープンで、利用者の自由な暮らしを支援している。一人で外出しようとする利用者には、安全面に配慮して、止めるのではなくさりげなく声をかけ、見守りを徹底している。訪問調査の際も、何度も出入りを繰り返す利用者がおられたが、職員が行動パターンを把握しており、しっかりと見守りながら支援にあたっていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練は、併設のケアハウスと合同で行い、日頃より協力体制を整えている。訓練の実施後は、写真付の消防訓練記録も整理している。また、ホーム内にはスプリンクラーを設置している。		

長崎県 グループホームさくらの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録しており、栄養バランスは栄養士の指導のもと一日ごとに把握している。水分摂取量も把握しており、摂取量が少ない時はおやつや食事の際に調整している。また、利用者一人ひとりの状態に合わせて、刻み食にするなどの工夫も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者にとって不快な音やまぶしい光を感じることもなく、ゆったりと過ごせるようになっている。リビングには畳のスペースがあり、利用者がゆっくり横になるなどして過ごせるようになっている。また、新聞や日用品の配置などにより、生活感のある空間づくりの工夫が施されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフローリングの部屋と畳の部屋があり、利用者は家族と相談しながら、ベットや布団、調度品を持ち込んで、その人らしい部屋づくりの工夫をしている。また、家族が宿泊できるような配慮や支援も行っている。		